



集団活動を通して・・・

学校には、「学習指導要領」というものがあり、公立学校は、この内容に従って授業を始めとする様々な教育活動を進めていくことが、法律で定められています。その中の「特別活動」という分野（学級活動や生徒会活動、学校行事が含まれます）のところを見てみると、「目標」に次のようなことが書かれています。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して…（後略）

少し、難しい表現もありますが、キーワードは「集団活動」です。例えば、「学級活動」では、「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、・・・」と書かれています。「生徒会活動」では、「異年齢の生徒同士で協力し、・・・」と書かれています。「学校行事」では「全校又は学年の生徒で協力し、・・・」と書かれています。いずれも、集団活動を通して行わなければならないものです。

コロナ禍において、オンライン授業が注目されています。本校でも、タブレットの持ち帰りを行い、接続の確認をしました。今後、必要に応じて、取り入れていきたいと思っています。このようなオンライン授業を突き詰めていくと、「学校に行かなくても勉強できる。」という考えにつながってしまう恐れがあります。

では、学校はなくてもいいの？いや、決してそんなことはありません。学校の存在意義は、上で触れた「集団活動」だと思っています。集団で活動することを通して学べることがあります。集団で活動することを通してでなければ、学べないことがあります。例えば、相手の立場に立って他人と接するとき、どのように配慮しなければならないか。友だちと意見が食い違ったときに、どのように意見をすりあわせればよいのか。学級で何かに取り組むとき、みんなの気持ちを同じ方に向けて協力するにはどうすればよいのか。このようなことは、集団活動を通してでなければ、経験することができないことです。そして、経験しておかなければ、社会へ出たときに困ることがあります。

五色台学習も修学旅行も、集団活動を通して学習するよい機会でした。例年のような体験はできなかったものの、教室の授業では学べないものがあつたはず。今週末には、合唱コンクールがあります。クラス練習がうまくいかないとき、みなさんは話し合っ解決しようとしていますか。そういったことが、人として、とても大切なものにつながると思います。何を学んだかは、人によって違うでしょう。自分は何を学んだのか。振り返ったときに、言えるようにしておきたいですね。

<三中生のちょっとした話>

前回書かせていただいたように、地区新人大会がスタートしました。これまでに、陸上部、剣道部、野球部、男女ソフトテニス部が終わりました。陸上部と剣道部については、前回お伝えしたとおりですが、陸上部は、その後の県大会でも、男子が地区新人に続いて総合優勝を果たすことができました。おめでとうございます。これで四冠達成です。日頃の練習の成果を、部員一丸となって発揮することができた結果ですね。

野球部は、優勝に匹敵すると言っても過言ではない、準優勝でした。あと一歩及ばなかった悔しさは、県新人で晴らしてくれることを期待しています。

ソフトテニス部は、団体戦では悔しい思いをしましたが、個人戦では片山絢太・松本悠太郎ペア、石川凜太郎・白川諒ペア、金子莉帆・宮武怜央奈ペア、門脇星奈・佐藤聖ペア、次田來夢・金子夏帆ペアの男女合わせて5ペアが県新人に出場します。他の部員の思いも受けて、精一杯、力を出し切ってください。

また、校外部では、下川大輔さんが、水泳の県新人で、200m平泳ぎ優勝、100m平泳ぎ第2位という立派な成績を収めました。おめでとうございます。

今後の地区新人の予定は、次のとおりです。しっかり準備をして、悔いの残らない大会にしてください。



<陸上部のカップと野球部のトロフィー>